



紙つづて

前脚と口のまわりの白い黒猫のクーちゃんは福島県飯舘村の菅野千恵子さんの愛猫ですが、人懐っこい性格で、今では週末

に集まる「ふくしま再生の会」のみんなの大切なペットです。クーちゃんは二〇一一年の震災後、村民が避難した後も飯舘で生き延びてきました。避難先へ連れて行けない牛などの家畜は手放し、ペットには村民が結成した「見守り隊」が時々餌を与えていましたが、夜は誰もいない屋外で過ごしています。

人間がいなくなったため幅を利かせるようになったネズミ、イノシシ、ウサギ、猿などの野生動物が活発に動き回っています。佐須の試験田の周りにはイノシシ除けの電気柵が巡らされていますが、最近猿の被害がひどく、補強が必要でした。

飯舘村の動物

たちは田に入り込み、集団で稲わらを敷いて円座を作って穂を食べるのだそうです。夜に人がいないことを知っていてだんだん態度が大きくなったとか、ボス猿が遠くから私たちを威嚇していたこともあります。

小雪のちがつく十二月の朝、わなにかかったイノシシを、専門家が解剖しました。従来この地域では狩猟が認められ、適当な数の命を頂くことで共存していたのですが、昨年の解剖で放射能が高いことが分かったため、研究目的の捕獲です。駆除もしていますが対応しきれず、村の復興に問題になるでしょう。原発事故により長引く避



難生活は人間とペット、野生動物のバランスにも大きく影響を与えています。
 (土器屋 由紀子＝富士山測候所を活用する会理事)